

教 師 ノ ー ト

日付	2022年 1月16日
単元	マタイの福音書・1
テーマ	イエスさまを第一にしてついていく
タイトル	わたしについて来なさい
テキスト	マタイ4:17～25
参照箇所	マルコ 1:16-20、ルカ 5:1:11、ヨハネ 1:40-42
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マタイ4:19-20
AG 日曜学校教案参照箇所	
□導入	
	イエスさまは荒野で誘惑を受けられたあと、宣教を開始されました。イエスさまは、宣教活動の一番初めに、何をなさったと思いますか？
□ポイント1 イエスさまはペテロとアンデレを弟子にされました(17-20)	
	イエスさまは「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と告知らせ始められました。いよいよ宣教の開始です。カペナウムという、ガリラヤ湖のほとりの町で、イエスさまは宣教をスタートされました。ガリラヤ湖は、この地方で最も大きな湖です。魚がたくさん獲れるので、この町では、多くの人が漁師の仕事をしていました。ペテロとアンデレも、漁師でした。その日も、彼らは、湖に網を投げ、魚を獲っていました。そこへ、イエスさまが通りかかれ、ペテロとアンデレが漁をしているのをご覧になりました。イエスさまは、彼らにこうおっしゃいました「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」普段と変わらない、普通の仕事の真っ最中の出来事です。ペテロとアンデレは、そのことばを聞いて、どんなことを考えたでしょうか？ 20節を読みましょう。彼らは「すぐに網を捨てて従った」と書いてあります。
☞	イエスさまとペテロたちは、この時が初対面ではありませんでした(ヨハネ1～2章参照)
□ポイント2 イエスさまはヤコブとヨハネを弟子にされました(21-22)	
	そこからさらに進んでいったところで、イエスさまは、また別のふたりの兄弟をご覧になりました。ヤコブとヨハネです。彼らは、お父さんのゼベダイといっしょに、舟の中で網を修理していました。彼らは親子・兄弟で漁師の仕事をしていたのです。イエスさまは、ヤコブとヨハネにも弟子になってついてくようにと声をかけられました。すると、彼らはすぐに舟もお父さんも残してイエスさまに従ってついていきました。
□ポイント3 イエスさまはガリラヤ全土を巡られました(23-25)	
	イエスさまは、ガリラヤ地方のいたるところを巡って、会堂で教え、福音を宣べ伝える働きをなさいました。また、人々のあらゆる病気を癒されました。イエスさまのうわさは、すぐに全国に広まりました。それで、うわさを聞いた人々は、病気と痛みと苦しむ病人、悪霊につかれた人など、イエスさまのところに連れて来るようになりました。イエスさまは彼らを癒されました。そのすばらしさを知った大勢の群集がイエスさまにつき従うようになりました。

□結論 イエスさまは、弟子を召命されました

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. どんなものよりも、イエスさまを第一にして従っていきましょう。

漁師にとって、網や舟は何より大切な財産でした。文字通り、それがないと生きていけなかったのです。しかし彼らは、それを捨てて、イエスさまに従ってついていきました。自分の財産や生活よりも、イエスさまを第一優先にしたのです。みなさんも、大切にしている物がありますね？ 男子ならゲーム機やサッカーボール、女子ならアクセサリやキャラクターグッズかな？（モノを大切にするのは良いことですが）それらのモノよりも、イエスさまを第一にして従っていますか？ もっと言うと、ほとんどの人は、一番大事なのは「自分自身」ではないでしょうか。しかし、イエスさまに従うということは、自分の思いを捨てて、イエスさまを第一にすることです。いくら自分のモノや思いを大切にしても、イエスさまを失ってしまつては、何ものりません。自分の命を大切にしても、イエスさまから離れてしまったら、やがて滅びるのです。逆に、イエスさまを第一にしていけば、すべてのものは添えて与えられるのです（マタイ6:33）。

2. どんなときも「すぐに」従いましょう。

ペテロ・アンデレ・ヤコブ・ヨハネは、「すぐに」イエスさまに従ってついていきました。普段と変わらない、仕事の真っ最中に、「すぐに」従うことは、簡単なことではなかったはずですが。私たちだったら、「今は忙しいけれど、冬になったら仕事が暇になるので、都合がいたら弟子になります」とか、「家族とお別れの会をして、荷物をそろえ、銀行でお金をおろしてから行きます」と答えてしまいそうですね。あなたは、イエスさまに「ついて来なさい」と言われたら、すぐについていけますか？ お父さんお母さん、教会の先生に何か言われたとき「今テレビ見てるから」「宿題が終わったら」と言っていないですか？ もし、今イエスさまがあなたに「私について来なさい」「弟子になりなさい」と言われていると感じたら、「いつかそのうち」とか「おとなになったら」ではなく、「すぐに」従いましょう。

3. 安心してついていきましょう。

イエスさまは、「人間をとる漁師にしてあげよう」と言われました。「してあげる」というのですから、イエスさまが責任をもってくださるのです。あなたの力ではありません。イエスさまを第一にして従っていくなら、イエスさまがあなたを、イエスさまの愛を伝える立派なクリスチャンにくださるのです。イエスさまは、初めからあなたに完璧な弟子になれとおっしゃる方ではありません。初めから無理なこと、難しいことをさせたりなさいません。必要なことはちゃんとイエスさまが教えて、訓練して下さいます。実際に、病気を癒したり、悪霊を追い出したり、初めはイエスさまご自身がなさいました（23～24節）。お手本を見せて教えてくださったのです。その上で、それらの働きを弟子たちに任せました（マタイ10章）。

小さくて弱い私たちでも、イエスさまに従っていく気持ちがあれば、弟子になれるのです。逆に、俺はナンデモできるから優秀な弟子になれる！ というような人はふさわしくありません。イエスさまは、ペテロのようなごく普通の漁師を選んでくださいました（祭司や律法学者のように聖書のことをよく知っている人たちは他にたくさんいたのに）。

あなたも、普通の小学生かもしれませんが、あなたにしかできない特別な使命を与えられています。自分の弱さを見るのではなく、イエスさまだけを頼ってついていきましょう。ペテロも実際に何度も失敗しました（湖でおぼれたり、ゲッセマネで居眠りしたり、イエスさまを知らないで3度裏切ったり）。でも弟子を失格になったことはありません。絶対に見捨てられません。いつもイエスさまはともにいてくださるのです（マタイ28:20）